整理No.	61

平成26年度 施策評価シート（評価対象：H25年度）

【１．施策名】

施策コード	411-04	基本施策	魅力ある教育の推進	所管部局	教育委員会
施　策　名	一人ひとりの子どもに応じた支援			主担当課	学校教育課
				関係部局課	
施策の目標	個々の実態に応じた指導や相談体制の充実などにより、子ども一人ひとりが自立し、主体的に社会参加できる環境を目指します。				

【２．施策に取り組む理由】

施策目標に対する市民ニーズの傾向及び、施策目標の達成に向けた市の役割など
全ての子どもたちに、確かな学力をつけることが求められている。そのためには、児童生徒が日々楽しく充実した学校生活を送ることが重要視されている。Ｑ－Ｕ（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を活用し、子どもたちの学習意欲や友達との関係等の把握を行い、不登校・いじめの予防を図ることが市の役割である。 また、不登校や学級不適応を起こす児童・生徒が増える中、その居場所として中間教室を設置している。中間教室では集団適応指導・学習指導を行い、学校への復帰を図っていく。 複雑な人間関係や家庭環境を抱える児童生徒や保護者が増える中、来所・電話相談や学校訪問相談等でそれぞれが抱える様々な悩みや不安を理解し、解消に向けて支援することが必要である。また、障害による特別な支援を必要とする子ども一人ひとりに沿った適切な就学機会を確保することが求められている。学習上または生活上の困難を克服できるよう相談・支援体制等の環境を整備することで支援を行っていく。

【３．施策指標】

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値（H22）	実績 H24	実績 H25	実績 H26	実績 H27	実績 H28	目標値（H28）
学級生活に満足している小・中学校児童・生徒の割合	%	57.0	60.5	60.7				63.0
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
Ｑ－Ｕにより、児童生徒の学級における満足度を調査	児童生徒の学級満足度が６割を越えるようにする。							

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値（H22）	実績 H24	実績 H25	実績 H26	実績 H27	実績 H28	目標値（H28）
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							

25年度の取組内容実績	Ｑ－Ｕを小学校高学年２学年（６学年及び４学年又は５学年）と中学校１学年及び２学年を対象に、長野市立全小中学校（79校）で実施し、その調査結果を活用して学級運営の向上及び児童生徒の状況把握と指導・支援を行った。 中間教室では、不登校児童・生徒に対して学校復帰に向けて、通室を促し集団適応指導・学習指導を行った。 教育相談センターでは、児童・生徒やその保護者の相談を受けるほか、学校で開かれる不登校児童・生徒に関する支援会議にも参加して学校側との情報共有を図り、相談の充実を図った。 特別支援教育支援員については、学校の実態に基づき配置した（64校）。巡回相談員の派遣については、63校から派遣依頼があり、校内支援体制を整えるための相談を実施した。

【４．総合評価】

総合評価　（目標値に向けて）	順調
	評価の理由・説明等
適応性 市民ニーズや社会経済状況の変化に柔軟に対応しているか	相談業務に関しては、相談内容が年々多様化複雑化している中、各相談機関において、必要な相談を行っている。 家庭状況に起因する不登校が増える中、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら、家庭に向けた支援の充実を図った。 医療的ケアが必要な児童生徒について、必要な支援が出来るよう、看護師資格を持った支援員を配置した。
達成度 施策の目標達成に向けて順調に進んでいるか	Ｑ－Ｕの結果を基に支援を行った結果、満足群に属する児童生徒の人数が増加したクラスが増えた。 不登校児童生徒の在籍率は増えたが、支援の中で学校に復帰した児童生徒の割合も増えた。また、180日以上の長期欠席の生徒数が減少し、不登校の長期化が解消傾向となった。 相談機関において適切な相談を行ってきたが、関係者相互の情報共有が向上すれば支援効果が更に上がっていた課題が残った。 特別支援教育支援員については学校の実態に基づき配置したが、学校全体の支援体制の取り組状況については、学校によって格差があった。
事業の成果等 施策を構成する事務事業は目標を達成しているか	Ｑ－Ｕの結果をもとに、要支援群にいる児童生徒への支援や学級満足度を上げるため、各学校で取組んだ支援内容等について調査を行い状況を把握するとともに、各学校への指導に活用した。 不登校児童生徒の支援に必要なの情報の共有を図るため、「個の情報ファイル」の整備を推進したが、一部の学校での整備にとどまった。 特別な支援が必要な児童生徒の情報について、各担任の主観により基準がばらばらであったのでデータベース化を行い、必要な情報について基準を統一した。

【５．今後の展開】

	課　　題	課題解決に向けた具体的な取組
1	不登校を学校全体の問題として、中間教室を含め、全教職員で登校支援コーディネーターを中心に支援体制を構築する必要がある。 不登校の原因に家庭環境の問題も大きく関わってきていることや、相談内容も年々多様化複雑化している。	登校支援コーディネーターの研修を行い、管理職を始め、学校全教職員で、支援が行えるよう取組む。 複雑多岐にわたっている相談に対応できるよう、教育相談担当者の資質向上を図り、教育相談・支援を更に充実させる。
2	特別支援教育を学校全体の問題として捉え、学校管理職を始め、特別支援教育支援員を含めた全教職員で支援体制を構築すること、また、特別支援学級の教育課程及び指導のあり方、原学級との連携による適切な交流及び共同学習を十分に行い、特別な支援を必要とする児童生徒への組織的な支援を実施する必要がある。	特別支援コーディネーターの研修を行い、管理職を始め、学校全教職員で、支援が行えるよう取組む。 支援が必要な児童生徒の「個別の情報」を整理し、教職員で情報を共有すると共に、関係機関とも連携して活用できるよう取組む。

施策展開の方向性 (H26年度以降)	不登校を学校全体の問題として取り組み、中間教室も含めその体制について検討を行い、併せてＱ－Ｕをはじめ不登校対策に関する教職員研修の充実を図る。 不登校問題の早期発見・早期支援のため、学校との連携を密にし適切な対応、学校訪問や家庭訪問の効果的な訪問を行うなど教育相談体制を強化し、不登校の予防・改善を図る。支援に必要な情報を「個の情報ファイル」として整備し、支援に活用する。 特別支援教育支援員の効果的な配置を行い、学校全体としての支援体制を構築する。引き続き巡回相談員を派遣するとともに、学校教育課特別支援教育担当指導主事による学校への指導・助言を実施する。

【６．施策を構成する主な事務事業】

番号	事務事業名 ［事業区分］ 担当課名	事務事業の概要	事業の取組実績・成果
1	心の教育推進 ［サービス提供事業］ 学校教育課	「Ｑ－Ｕ」の結果から学級に対する満足度を把握し、児童生徒が不登校状態になる前の段階での指導・支援を行う。 学校外において相談や指導を受けることのできる児童生徒等のため、中間教室を設置し、登校へ向けて支援を行なう。	Ｑ－Ｕを長野市立全小中学校（79校）で実施し、その調査結果を活用して学級運営の向上及び児童生徒の状況把握と指導・支援を行った。
2	教育相談センター事業 ［サービス提供事業］ 学校教育課	窓口・電話相談員が来所及び電話による相談を行う。また、学校訪問相談指導員が定期的に担当校を訪問し、児童生徒・保護者の相談・支援を行い、家庭訪問相談員が家に閉じこもりがちな児童生徒の話し相手等となり、自立を促すため、家庭訪問等を行う。	相談内容の多くが不登校に関するものであり、児童・生徒やその保護者の相談や支援会議にも参加したが、不登校が発達障害の二次障害となっている状況から、教育センター教育相談担当と統合し情報を共有して相談体制を強化することとした。
3	特別支援教育推進事業 ［サービス提供事業］ 学校教育課	就学指導委員会で障害に応じた適切な教育の場を判断する。また特別支援教育支援員の配置、巡回相談員の派遣等と併せ、学校管理職及び特別支援教育コーディネーターを中心に学校内の支援体制充実を図る。	特別支援教育支援員については、学校の実態に基づき効果的な配置を行った。巡回相談員の派遣については、63校から派遣依頼があり、校内支援体制を整えるための相談を実施した。
4			

番号	事務事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
	達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
1	B	A	A	B	B	拡充	28,530	28,855	29,821	30,796
2	B	A	A	B	C	終了	25,130	25,067	24,767	
3	B	A	A	B	B	拡充	108,425	108,675	109,408	117,385
4										

5		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
6		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
7		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
8		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
9		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
10		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26